

Product Cycle 理論と 工業地域

町工場からみた地域

工場はどこにできるのか？

- 「工場立地の大原則」とは何か？
- こういう所には, ○○工場が立地する／しない
- 通常はありえない立地場所 → 理由を突き詰めると？
- 「一般的傾向」と「個別の特徴」この見極め

前回の復習 & Product Cycle 理論

- 前回の話は、輸送費指向論
 - 大きい工業は原料産地に立地する方が有利
 - 立地重量の小さい工業は消費地に吸引
 - 厳密には、原料指数1未満の場合、消費地立地の方が有利
- 「輸送費」で決定、「労働費」はこれを偏位させる
 - 労働 費指向論も重要、次の段階
- 正確に言えば、「輸送費」だけで現代の工業立地が決まるはず
ない

「なぜ、そこに立地するのだろうか？」 の合理的な説明を考えよう

- 製品の^①]という考え方
 - Kuznets 1929 「工業成長の法則」ですでに提唱
 - 「個々の工業は、産出、製品競争、製品の技術的 洗練性の各局面において、^②]を特徴とする発展サイクルをたどる」
- ↓
- これは、「^③ 的視点」のみ（企業の利潤の最大化）
- [^④]の必要性・・・製品の^①]と「立地」が関連することの説明が必要

ヴァーノン・モデル

- Vernon (1966) によるプロダクト・サイクル モデル (工業の空間的分散モデル)
- 製品が先進国で開発・生産されてから、発展途上国へ生産が移るまでを説明するモデル
- 生物の一生に見立てると、工業製品は、その誕生から成長, 成熟, 新製品への代替 (衰退・消滅) というライフ・サイクルをたどる
- この循環のダイナミズムは、還元すれば製品技術の革新によって「^⑤」に源泉がある

第1段階・・・革新的な新製品のステージ

- **生産は^⑥]に近い地点**
- 部品供給者 (^⑦) や^⑧], ^⑨]との頻繁な^⑩]が必要
- 生産における^⑪] (柔軟さ)
 - 新製品の需要は、一人当たりの所得の増大によって喚起され、先進的な市場において形成される
 - 労働の希少性 → 労働節約的な資本財の開発促進
- 製品技術の革新
- 生産は^⑥]で行われる。当初の理論では、「アメリカ東海岸」

第2段階・・・成熟製品のステージ

- **生産は**[¹²]
- 製品の設計や生産方式が安定化→市場の拡大, 大量生産による「¹³」(「先行ランナー」の優位性)
 - 生産コストへの関心はあるものの, [¹⁴]はまだ
- **他の場所でも生産が開始**
 - 生産地が市場に近接する意味が薄れる
 - アメリカ以外の先進国でも生産開始
 - 当初は「輸出」によって, 後には「¹⁵」(FDI)によって供給が続く

第3段階・・・標準化製品のステージ

- **生産は**[¹⁶]
- 製品は[¹⁷]もの
- 激しい[¹⁴]
- [¹⁸]への強い関心
- 輸出よりも[¹⁹] → 工場の立地変化

Product Cycle 理論

- 国際レベルにおける「**生産シフト**」を、製品の成熟ステージを軸として動的に説明
 - さらに、各国の所得や消費水準（伸び）も考慮している点で評価された
 - 製品技術と国民経済間との関係 それぞれの成熟度に一定の関係あり
- しかし、これは、先進国と途上国という「**経済システムの本質的な差**」を述べているに過ぎない、という批判
 - 「本当に、空間的思考なのか？」
 - 地理学的にみれば、「**空間的な分散化モデル**」とも取れる

まとめ

「工業立地論」はステレオタイプか？

- 先週・今週で示されている例は「²⁰」である
 - ○○の特徴をもつ地域 → ××工業が多く立地
 - △△産業の工場の新規立地 → …の条件の整った地域へ進出
 - こんな「²⁰」の予測がつくだけでも大きな進歩
- フレキシブルに考えよう！
 - 「なぜ、そこに立地するのだろうか」の合理的な説明を！